

授業科目等の概要

(医療専門課程 言語聴覚科) 2023年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			医学総論 Introduction to Medicine	健康・疾病・障害をとりまく 社会環境を理解し、医療従事者として あるべき姿を学ぶ。	1 年前期	15	1	○			○			○	
○			解剖学 Anatomy	人体各部の器官や組織の名称を学 び、位置関係や構造を理解する。 更に機能についての理解を深め る。	1 年前期	15	1	○			○		○		
○			生理学 Physiology	生体の機能とそのメカニズムにつ いて理解する。解剖学の知識とも 関連させながら理解を深める	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			病理学 Pathology	病気の原因、発生機序を探り、疾 病による身体変化についての理解 を深める。	1 年前期	15	1	○			○			○	
○			内科学 Internal Medicine	幅広い内科疾患の成因、症状、診 断、治療を系統的に理解する。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			小児科学 Pediatrics	小児期の成長・発達の基本を学 び、更にリハビリテーションに関 連する小児疾患について理解を深 める。	1 年前期	30	2	○			○			○	
○			精神医学 Psychiatry	臨床現場で接することの多い精神 疾患を理解し、対応を学ぶ。	1 年前期	15	1	○			○			○	
○			リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	リハビリテーションの理念と基本 原則を理解し、更に医学的リハビ リテーションの現状を学ぶ。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○			耳鼻咽喉科学 Otorhinolaryngology	言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科の医学的知識、特に機 能・疾患を中心に学ぶ。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○			臨床神経学 Clinical Neurology	代表的な神経疾患について、症 状、診断、治療、機能予後の理解 を深める。	1 年後期	30	2	○			○			○	

○	言語学 I Linguistics I	言語の持つ特性の基礎知識を理解する。	1 年前期	30	2	○				○				○
○	言語学 II Linguistics II	臨床現場で応用できるように言語学の知識を更に深める。	1 年後期	30	2	○				○				○
○	音声学 I Phonology I	調音器官、調音方法の基礎を学び、国際音声記号（IPA）表記ができるようにする。	1 年前期	30	2	○				○				○
○	音声学 II Phonology II	自分で実際に国際音声記号（IPA）の音を発音できるようにする。また音声に関する様々な性質を深く理解する。	1 年後期	30	2	○				○				○
○	音響学 Acoustics	音と音声の物理的な側面と音声の生理的な側面を音響音声学的に理解する。	1 年前期	30	2	○				○				○
○	聴覚心理学 Psychoacoustics	聴覚器官の構造・機能及び音響学の理解を踏まえた上で、聴覚の心理特性について学ぶ。	1 年後期	30	2	○				○				○
○	言語発達学 Language Development	言語発達を説明する理論をもとに、前言語期から児童期までの言語能力、思考の発達等を学ぶ。	1 年前期	30	2	○				○				○
○	社会保障制度 Social Security System	社会保障および社会福祉に対する考え方を学び、社会保障の体系・制度・法律について理解を深める。	2 年前期	30	2	○				○			○	△
○	リハビリテーション概論 Introduction to Rehabilitation	リハビリテーションの理念や歴史を学び、医学的、社会的、職業的、教育的リハビリテーションの概要について理解する。	2 年前期	15	1	○				○			○	
○	医療・福祉・教育関係法規 Related Regulation	医事法規、保健・福祉・教育関係職種の法規を中心に学ぶ。	2 年前期	15	1	○				○				○
○	言語聴覚障害概論 Introduction to Pathology of Speech & Hearing	乳幼児から高齢者に至るまでの様々な言語聴覚障害を学び、言語聴覚士としての役割について理解する。	1 年前期	30	2	○				○			○	
○	言語聴覚障害診断学 I (小児・成人) Diagnosis in Speech & Hearing in Children and Adults I	子どもから成人までのコミュニケーション障害の評価と診断、指導方針が立案できる基礎を学ぶ。	2 年前期	45	3	○				○			○	△

○		言語聴覚障害診断学Ⅱ (聴覚) Diagnosis in Speech & Hearing II	聴覚障害児・者のコミュニケーション障害の評価と診断、指導方針が立案できる基礎を学ぶ。	2年前期	30	2	○		○		○								
○		画像診断学 Medical Radiography	頭部のCT, MRI及びRI, Angio画像の基礎及び胸部のレントゲン画像について学ぶ。	2年前期	15	1	○		○		○								
○		失語症Ⅰ Aphasiology I	失語症の定義および言語症状を学ぶ。	1年前期	30	2	○		○		○								
○		失語症Ⅱ Aphasiology II	失語症の古典的分類を中心に、演習を交えて症状を深く理解する。	1年後期	45	3	○		○		○								
○		失語症Ⅲ Aphasiology III	様々な失語症のタイプ、症状に応じた訓練方法について演習を交えて学ぶ。	2年前期	30	2	○		○		○								
○		高次脳機能障害Ⅰ Neuroscience I	高次脳機能障害の定義および基本的知識について、失語症を除く失認、失行、記憶障害、前頭葉症状などの症状を学ぶ。	1年前期	30	2	○		○		○								
○		高次脳機能障害Ⅱ Neuroscience II	高次脳機能障害の多様な障害について、演習を交えながら知識を深め、評価や訓練方法について学ぶ。	2年前期	45	3	○		○		○								
○		言語発達障害概論 Introduction to Atypical Language Development	言語発達障害の分類、症状等の基礎を学ぶ。	1年前期	15	1	○		○		○								
○		言語発達障害Ⅰ (精神発達遅滞) Atypical Language Development I (Mental Retardation)	精神発達遅滞に伴う障害を理解し、評価、訓練方法を学ぶ。	1年後期	30	2	○		○		○								
○		言語発達障害Ⅱ (脳性麻痺) Atypical Language Development II (Cerebral Palsy)	脳性麻痺に伴う様々な障害を理解し、評価、訓練方法を学ぶ。	1年後期	30	2	○		○		○								
○		言語発達障害Ⅲ (自閉症) Atypical Language Development III (Autism)	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害など自閉症スペクトルを理解し、障害のある子どもに対する支援システムを学ぶ。	2年前期	30	2	○		○		○								
○		言語発達障害Ⅳ (学習障害) Atypical Language Development IV (Learning Disability)	学習障害の概要を理解し、学習障害のある子どもに対する支援システムについて学ぶ。	2年前期	30	2	○		○		○								

○		言語発達障害治療学 Treatment in Atypical Language Development	言語発達障害の検査方法を中心に学ぶ	1年後期	30	2	○	○	○										
○		音声障害 Voice Disorders	音声（発声）障害の種類と検査法、手術や音声治療の手技について学ぶ。	2年前期	30	2	○		○										○
○		構音障害概論 (機能性含む) Introduction to Articulation Disorders	構音のメカニズムの概要を理解し、小児にみられる機能性構音障害について、評価、訓練方法を学ぶ。	1年後期	30	2	○			○									○
○		構音障害（口蓋裂） Articulation Disorders (Cleft Palate)	器質的問題、特に口唇・口蓋裂を中心に構音障害を理解し、評価、訓練方法を学ぶ。	2年前期	30	2	○			○									○
○		構音障害 (口腔中咽頭癌) Articulation Disorders (Oropharyngeal Cancer)	器質的問題、特に口腔中咽頭癌を中心に構音障害を理解し、評価、訓練方法を学ぶ。	2年前期	30	2	○			○									○
○		構音障害（運動性）Ⅰ Dysarthria I	神経、筋の疾患の障害で生じる構音障害を理解し、評価できるように学ぶ。	1年後期	30	2	○			○									○
○		構音障害（運動性）Ⅱ Dysarthria II	神経、筋の疾患の障害で生じる構音障害の訓練方法について、演習を交えながら学ぶ。	2年前期	30	2		○		○									○
○		嚥下障害概論 Introduction to Dysphagia	摂食・嚥下障害の臨床に必要な基礎知識を習得し、言語聴覚士としての役割と業務内容について理解する。	1年前期	30	2	○			○									○
○		嚥下障害Ⅰ（治療学） Dysphagia I (Therapeutics)	嚥下障害の検査方法を中心に演習を交えながら検査から訓練実施までの関わり方について学ぶ。	1年後期	45	3		○		○									○
○		嚥下障害Ⅱ（小児・成人） Dysphagia II (Children and Adults)	先天性疾患や脳卒中に伴う嚥下障害など小児・成人の嚥下障害の知識を習得し、評価・訓練方法を学ぶ。	2年前期	30	2		○		○									○△
○		吃音 Stuttering	小児や成人の吃音の症状を理解し、その対応を学ぶ。	2年前期	15	1		○			○								○
○		聴覚障害概論 Introduction to Audiology	聴覚障害の分類、原因等、聴覚障害の基礎について学ぶ。	1年前期	30	2		○			○								○

○	小児聴覚障害 I Pediatric Audiology I	小児期の聴覚障害の発見と鑑別とを中心に小児聴覚障害を正しく理解する。	1 年後期	30	2	○				○					○
○	小児聴覚障害 II Pediatric Audiology II	小児聴覚障害の評価、訓練、指導についての方法を学ぶ。	2 年前期	30	2	○				○					○
○	成人聴覚障害 (二重障害を含む) Hearing Impairment in Adults Including Deaf-Blind	高齢者の聴覚障害とその特徴を理解し、社会自立への援助方法を学ぶ。更に視覚聴覚二重障害について理解する。	1 年後期	30	2	○				○					○
○	補聴器 Hearing Aid	補聴器の仕組みを理解し、フィッティングや調整の仕方に至る知識・技術を学ぶ。	2 年前期	15	1	○				○					○
○	人工内耳 Cochlear Implant	人工内耳の仕組みを理解し、その適応、更にマッピングや訓練について学ぶ。	2 年前期	15	1	○				○					○
○	聴覚検査 Hearing Assessment	演習を中心に実際の聴覚機能の検査方法、その理論、結果の解釈について学ぶ。	1 年後期	30	2				○		○				○
○	臨床実習 I Clinical Practice I	臨床現場における患者対応のあり方、反応の記録、検査・評価の実際を学ぶ。	1 年後期	80	2					○		○			○ ○
○	臨床実習 II Clinical Practice II	言語聴覚士が臨床現場で働く上で必要な知識・技術を実際に学び、習得する。	2 年後期	400	10					○		○			○ ○
○	国試対策 (総合) Comprehensive Seminar for National Examination	言語聴覚士の国家資格合格を目指し、試験対策を行う。	2 年後期	30	2	○						○			○ ○
合計			67科目			2295単位時間(133単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
履修すべき学科目のうち、履修を認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。	1 学年の学期区分	2 期	
	1 学期の授業期間	15 週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。